

斑点米カメムシ類情報第1号

平成27年7月3日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

1 発生状況

6月下旬の巡回調査（県内94ほ場）で、水田畦畔における捕虫網20回すくい取りによる斑点米カメムシ類の捕獲頭数は、12.9頭（平年7.7頭）で、過去10年と比較して2番目に多い捕獲頭数でした。

水田畦畔で、すでにミナミアオカメムシの幼虫の生息を確認しており、水田内でもクモヘリカメムシなどの成虫を確認しています。

予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺数は、5月下旬から増加し始め、東浦町ではやや多く、弥富市、西尾市、豊川市では平年並、長久手市ではやや少なく、大口町では少ない状況です。

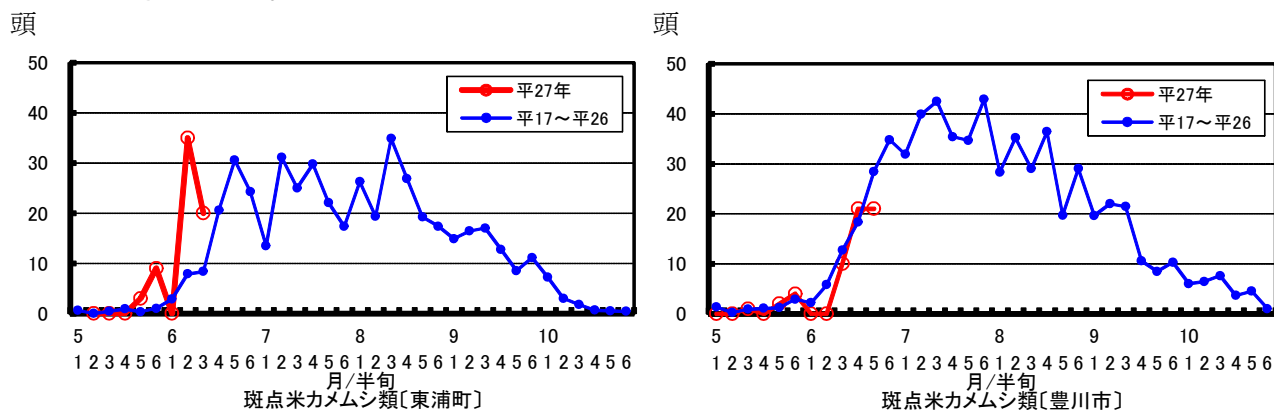


図 予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺数

2 防除対策

斑点米カメムシ類は、主に水田畦畔などのイネ科雑草の子実を餌に増殖するので、除草を徹底しましょう。また、水田内で穂をつけたヒエ類なども斑点米カメムシ類の発生を助長するので、除去しましょう。

畦畔や水田内をよく観察し、カメムシ類を確認したら、表を参考に穂揃期に薬剤防除を実施し、その後も発生が多い場合は7日から10日後に再度防除しましょう。

表 斑点米カメムシ類に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	使用回数
スミチオン乳剤	収穫21日前まで	2回以内
トレボン乳剤	収穫14日前まで	3回以内
キラップフロアブル	収穫14日前まで	2回以内
キラップ粒剤		
スタークル／アルバリン顆粒水溶剤	収穫7日前まで	3回以内
スタークル液剤10		
スタークル／アルバリン粒剤		
スタークル豆つぶ		

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。